

ASSIST

2025.8.1
Vol.28

新理事長×五蘊分析
育ちと暮らしの再構築

芽吹く未来へ

社会福祉法人 萌葱の郷

自閉症総合支援センター・子育て総合支援センター





五十嵐康郎理事長が退任、 新理事長に五十嵐猛氏が就任

当法人は、令和7年6月28日付で、五十嵐康郎理事長が退任し、新たに五十嵐猛氏が就任いたしました。

理事長退任のご挨拶

1988年3月に厚生労働省から出向中の霜鳥大分県障害福祉課長に自閉症者専門施設を設立したいと申し出て、1991年6月に自閉症者施設「めぶき園」を開設し、34年が経過しました。大学在学中に福祉からも教育からも見放されていた知的障害児施設での先人たちの実践を知り、「ひゅうまん運動」を創設しましたが、現場からの出直しを決意して、1971年4月に滝乃川学園児童部に就職し、重度の知的障害を伴う自閉症児を担当しました。

重度棟の施設撤廃、生活見直し、全員就学、運営の民主化等に取り組みましたが、石井哲夫先生の受容的交流療法を学び、それまでの職員中心の姿勢や態度、指導のあり方に疑問を持つようになり、職員研修に取り組みましたが、一職員の立場で意識改革することの限界を感じて、自閉症専門施設を設立することを思い立ち、大分県自閉症児親の会、大分県障害福祉課、犬飼町、その他多くの方々のお力添えを得て、僅か3年という短期間で「めぶき園」を開設することができました。

創立30周年という節目の年に私の実践や学んだことを萌葱の郷の職員や後世の人たちに広く伝えたいと考えて「自閉症療育のコペルニクスの転回」～エビデンスは現場にある～と題して、「萌葱の郷メソッド」を出版致しました。

「萌葱の郷メソッド」では、安心感と信頼関係がなければ療育や支援は成立しないということ、様々な療育理論や技法は価値があるが、特定の理論に囚われず、利用者と支援者の関係性の視点に立って、支援者の全知全能を傾けて、補助自我として最良の役割を演じることが療育の神髄であり、利用者の課題や問題行動を取り上げるのではなく、行動障害を改善し、利用者の発達を保障するのは支援者の課題であって支援者の気持や態度、関わり方を検証することで無限の可能性が開けるとして、支援者が設定した目標に向けて訓練・指導するのではなく、利用者本人の人生や生きがいを大切に自己実現を目指すことが大切だと提唱しています。

自閉症療育実践は私にとって生きがいであり、学ぶことの多い人生そのものでした。道半ばではありますが、老いと体力の限界を痛感し、理事長を退任するにあたり、五十嵐猛新理事長はじめ、役職員一同一丸となってさらに実践と研鑽を重ねて自閉症療育、対人支援の理想を追求して頂きたいと願っています。引き続きご支援・ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 萌葱の郷 理事長交代式が執り行われました

令和7年7月5日、市内ホールにて、社会福祉法人萌葱の郷の理事長交代式が厳かに執り行われました。長年にわたり法人を牽引してきた五十嵐康郎理事長が退任し、新たに五十嵐猛氏が理事長に就任されました。式典には多くの法人職員が出席。五十嵐康郎理事長は、「これまで多くの方々に支えていただき、この場に立てたことに感謝いたします。」と感謝の言葉を述べ、会場からは温かい拍手が送られました。

新理事長の五十嵐猛氏は、「これまでの歩みを大切にしつつ、今後はさらに地域に開かれた法人を目指していきたい。」と抱負を語りました。式典は、終始、穏やかな雰囲気の中で行われ、退任理事長への労いと新理事長への期待が感じられる一日となりました。





理事長就任のご挨拶

このたび、社会福祉法人萌葱の郷の理事長を拝命いたしました五十嵐猛でございます。

まず初めに、長年にわたり法人の発展に尽力された前理事長・五十嵐康郎の功績に、心より敬意と感謝を申し上げます。康郎前理事長が掲げてこられた「自閉症を中心とする発達障がいのある人たちとの豊かな育ちと暮らしの実現」という理念は、地域の共生社会を志向する私たちの支えであり、これからも揺るぎない指針として受け継いでまいります。

私は幼少期より「滝乃川学園」など、障がい福祉の現場に身を置き、生活支援・発達支援・早期療育・就労支援・余暇支援などの実践を通して、「エビデンスは現場にある」という信念を育ててまいりました。その信念のもと、支援者・ご家族・地域社会と共に、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指し、萌葱の郷の新たな歩みを力強く進めてまいります。

本法人では現在、「AI活用による業務効率化と記録精度向上」「高齢化に対応する地域包括支援体制の再構築」「五蘊分析を基盤とした療育支援」の3つの重点プロジェクトを軸に、支援の質の向上と地域との連携強化を図っております。

AI活用においては、単なる省力化ではなく、記録や意思決定における「曖昧さの排除」と「支援方針の透明化」を目指しています。これにより、支援者間の共有が容易になり、利用者ご本人の意向や状態変化を、よりの確に反映できるようになります。

また、利用者の高齢化により、長期的な暮らしを支える包括的な支援体制が求められています。萌葱の郷では、「最期の居場所」としての尊厳ある暮らしを構築するため、看取りケア・地域連携・職員育成の三位一体の仕組みづくりに取り組んでいます。これにより、障がいのある方々が加齢を迎えても安心して暮らし続けられる環境を整えてまいります。

療育支援については、「五蘊分析」とそれに基づく「受容的交流理論」の実践に力を入れております。これは、利用者の内面的な心理状態を可視化し、本人のニーズや安心感に寄り添う支援の質を高めるものです。五蘊分析は、ABA（応用行動分析）などの科学的手法とも融合できる汎用性を持ち、支援者の洞察力と共感力を同時に育む研修体系の中核を担っています。

これらの取り組みは、前理事長が築いてこられた基盤の上に、時代の要請と現場の声を重ね合わせることで形づくられています。今後も、法人内外の皆さまとの協働を大切にしながら、職員一人ひとりが誇りを持てる職場づくりと、利用者が安心して生活できる支援環境の充実に努めてまいります。皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

社会福祉法人萌葱の郷
理事長 五十嵐猛

五蘊(色・受・想・行・識)で
心のメカニズムを探ってみよう

古来から伝わる人間のOSを利用する心理行動分析

人間社会を読み解く
実践ガイド



ごうん 五蘊分析マニュアル

- ・カウンセリングや教育福祉現場での実践的な活用を紹介
- ・心理行動を五つの構成要素に分解して問題の本質を追求
- ・ストレスや葛藤の背景を深く捉えることで適応課題を解消
- ・若年層から専門職、社会問題やビジネスまで幅広く応用!!



著者:五十嵐 猛
(発達障害支援SV・公認心理師)

Amazonにて販売中!!

地域でつながり、支える力を育む

～強度行動障害支援者養成研修と中核機能強化の取り組み～

誰もが安心して暮らせる地域づくりのためには、支援が必要な方々を専門的に支える人材の育成と、地域全体で支援力を高めていく仕組みが求められています。当法人では、障害者支援施設「めぶき園」が中心となって実施している強度行動障害支援者養成研修と、こども発達・子育て支援センター「わくわくかん」「なかよしひろば」が担う中核機能強化を通じて、地域に根ざした支援体制の充実に取り組んでいます。今回は、それぞれの取り組みをご紹介します。

「めぶき園」が担う 強度行動障害支援者養成研修

～専門性の高い支援を地域に広げる～

当法人では、平成27年度より「強度行動障害支援者養成研修」を継続的に開催し、地域社会における専門的支援者の育成に一貫して取り組んでまいりました。強度行動障害のある方々を支えるには、支援者の専門的知識や技術に加え、柔軟な対応力や深い理解力が求められます。当法人が長年にわたり蓄積してきた現場での実践経験を研修内容に反映させることで、実効性の高い学びを提供できていると自負しており、受講者からも「実践に直結する」「現場で役立つ」と高い評価をいただいております。

近年では、地域を越えて他法人や福祉・医療機関、教育関係者など、さまざまな分野の専門職が受講されるようになり、研修の広がりが地域全体の支援力向上に波及していることを強く実感しています。単なる座学にとどまらず、当法人が実際に直面した課題や事例を交えた内容は、参加者にとってもよりリアリティのある学びの機会となっています。

当研修の特徴は、技術や知識の習得のみに留まらず、強度行動障害のある方一人ひとりの生育歴や環境、感情に深く寄り添う視点を大切にしている点にあります。支援は「対応」ではなく「関係性の構築」から始まるという理念のもと、ケース検討やロールプレイを通して、支援チームとしての連携力や、現場での即応力・応用力の向上を目指しています。これにより、受講者が自らの支援を見直し、再構築する機会にもなっています。

さらに昨年度より、当法人めぶき園の職員が県代表として「中核的人材養成研修」にも参加しており、地域におけるリーダー的存在としての役割を担い始めています。この研修で得た知見や視座を法人内外に共有・還元することで、支援の質の底上げや持続可能な体制づくりに貢献してまいります。

今後も私たちは、強度行動障害のある方々が地域の中で尊厳をもって暮らし続けられる社会の実現を目指し、支援者の継続的な育成と専門性の深化に努めてまいります。地域に根ざした支援と、未来を見据えた人材育成を両輪とし、誰もが安心して共に生きることのできる地域社会を築いていきたいと考えています。



こども発達・子育て支援センター「わくわくかん」の中核機能強化の取り組みについて

こども発達・子育て支援センター「わくわくかん」では、令和6年度より、地域の障害児支援の“中核”としての役割を強化するため、「中核機能強化加算」を活用しています。専門職による支援の充実や、保育所・学校・医療機関などとの連携を深めることで、地域全体で子どもたちを支える体制づくりを進めています。保護者の皆さまへの相談対応や情報提供にも力を入れています。

わくわくかんでの中核機能強化加算としての『4つの中核機能』の取り組みをご紹介します。

1 幅広い高度な専門性に基づく 発達支援・家族支援機能

専門職による発達支援、家族支援の実施体制

専門職の常勤配置と発達支援の実施

作業療法士、公認心理師、保育士、社会福祉士といった多職種の専門職を常勤で配置し、子どもの多様な発達課題にきめ細かく対応できる体制を整え、個別支援計画に基づき発達支援を実施しています。

保護者支援のためのグループミーティング・ピアカウンセリング

毎週木曜日午前に保護者と公認心理師によるグループミーティングを開催し、ピアカウンセリングやペアレントメンター的な機能を持つことで、保護者同士が悩みを共有し合い、共に支え合える関係づくりや専門職による相談や助言を行い、家族支援を実施しています。

保護者同士のつながりを深める会の開催

年2回、公認心理師や保育士を交えた「わくわくの会（保護者茶話会・遊びの会）」を実施し、保護者が気軽に集い、日々の子育てや発達支援に関する悩みや情報を共有できる機会を設け、兄弟児も参加可能とし、事業所でのふれあいや兄弟児支援にもつなげており、家族全体の支援につなげています。

3 地域のインクルージョン 推進の中核機能

地域の保育所・学校等との連携、 インクルーシブ教育推進

保育所等訪問支援による多機関連携

保育所等訪問支援は地域の保育園・こども園・幼稚園・小学校・支援学校へ訪問しています。訪問支援員と同行し、利用児童だけでなく気になる園児や児童生徒への支援助言を実施しており、訪問支援員と連携し、インクルーシブ教育推進のため、保育・教育現場での合理的配慮や支援方法の検討・情報共有を行っています。

発達障がい児巡回専門員派遣事業の巡回支援

市内の保育園・幼稚園の4歳児クラスを巡回し、発達障がいの早期発見・早期対応を推進。専門員が保育士や保護者に対し、特性に応じた関わり方や環境調整の助言を行い、子どもの発達段階に応じた支援体制を構築していければと考えています。

大分市幼保小連携協議会への参加

幼児教育から小学校教育への円滑な接続を目指し、幼児教育施設と家庭、小学校との連携推進や連携を支える行政の役割についての進捗状況等に関する評価検証を通し、教育の充実に資する目的の協議会であるので、インクルーシブ教育や多様な子どもの学びを支える環境整備に対する一助になればと参加しています。

2 地域の障害児支援事業所への スーパーバイズ・コンサルテーション機能

他事業所等への助言・研修・相談対応

地域事業所等からの相談対応と相談会の実施

地域の障害児通所事業所などからの相談には、随時柔軟に対応しています。また、県通連（県障害児通所支援連絡協議会など）が主催する研修会においても相談会を実施し、現場の課題や悩みに直接応じる体制を整えています。

オープンスクールによるコンサルテーションの提供

オープンスクール（施設公開や見学・発達支援に関するレクチャー）を実施し、児童発達支援に関するコンサルテーションを行っています。

保育士会合同研修会での発達支援研修

大分市内の保育士会4地区合同研修会にて、発達支援や児童発達支援についてのお話をさせていただきました。これにより、地域の保育士が発達支援の知識や実践方法を学び、子どもの発達を支える力を高めていければと考えています。

発達障がい者支援専門員養成研修（SV研修）の 実習施設としての機能

大分県発達障がい者支援専門員養成研修（SV研修）の実習施設として、地域や県内の障がい児支援事業所・関連機関のスーパーバイザー（SV）育成に貢献しています。

4 地域の発達支援の入口としての相談機能

相談窓口の設置、初期相談・情報提供

地域や関係機関からの相談は随時受付けており、公認心理師、臨床心理士が相談の窓口となり、初期相談等を行っています。大分市地域療育支援事業の療育相談（月2回）や施設支援（随時）を委託されていますので、発達支援の入り口としての相談機能や情報提供ができる体制を整えています。



「バディって何だ!？」 支援係長たちの本音トーク

「バディって何だ!？」 支援係長たちの本音トーク

福田…皆さん今日はお集まりいただきありがとうございます。本日は「バディ制度」について、お三方にお話を伺っていきます。まずは簡単に自己紹介をお願いしますか。

橋本…ライフサポートセンターなごみ園の橋本友紀です。普段は現場の支援と福利厚生委員も担当しています。今日はよろしくお願ひします。

久原…大分なごみ園の久原恵子です。児童発達支援を中心に関わらせてもらっています。どうぞよろしくお願ひします。

佐藤…わくわくかんの佐藤瑠美です。日々の支援の中で、職員間のコミュニケーションを大事にしています。よろしくお願ひします。

福田…ありがとうございます。さて今回のテーマである「バディ制度」ですが、これは新しく職場に加わる新人職員や異動者に対して、先輩職員がサポート役となつて、業務面・精神面のフォローを行う制度です。目的としては、早期の戦力化、定着率の向上、そして組織文化の浸透が挙げられています。では皆さん、日頃どのような意識で新人さんに関わっていますか？

橋本…私はまず「出合いの段階」から大切にしています。入職前にオープン見学に来てもらって、施設の雰囲気を感じてもらって、これはお互いのミスマッチを防ぐためでもあります。そこでも「この人いいな」と思えば、私たちが積極的に声をかけます。就職後も、その方の不安や戸惑いが和らぐように、自分の経験を踏まえて伝えるようにしています。教えるというより、共に学び、育つという姿勢を大事にしていますね。

福田…まさに共育ですね。ご自身のアップデートにもつながりますね。

橋本…そうですね。私自身も成長中ですし、信じて待つ姿勢や、自分も信頼してもらえようという関わりを意識しています。

久原…私も、特に職場の雰囲気作りを意識しています。児童はクラス単位での活動が

多いので、その中でリーダーと新人のペアリングを行うことが多いです。単に「教える」のではなく、お互いを高め合う関係が築けると、自然と成長も加速します。「春はこんな発言できなかったのに、秋には堂々と意見を言えるようになったね」と、その変化に気づいて褒めるようにしています。褒められて嬉しくない人はいませんから。

佐藤…本場にそうですね。私も「話しかけやすさ」を重視しています。特に忙しい時期には、自分が余裕を持って接することが大事だと感じています。今、一年目の職員が4人いますが、ふとした時に「これで合ってますか？」と聞かれた時はすごく嬉しいです。自分の子どもと同じくらいの年齢差もあるのが、威圧的にならないよう、ちょっとした雑談を交えながら接しています。

福田…皆さんそれぞれの現場で、実践されていますね。ではこれまでに印象に残ったバディ制度にまつわるエピソードがあれば教えてください。

橋本…印象に残っているのは、新人職員の家庭事情で退職を余儀なくされたケースです。どうしても仕事を続けるのが難しい状況で、職場としては退職を応援する形になりました。単なる労働力ではなく、その人の人生全体を尊重する。そういうスタンスで関わっていたからこそ、「辞めることも支援のひとつ」だと感じましたね。

久原…その気持ち、すごく分かります。私は半年間介護休暇を取ったことがありましたが、その間に玉田さんという職員が、私が出た期間に玉田さんという職員が、私がやっていた支援を見事に引き継いでくれたんです。その姿を見て、「ああ、育つてんだな」と涙が出そうになりました。自分があるのとつい頼ってしまうけど、いなくなることで本当の成長が見えたりします。

佐藤…私の中で印象に残っているのは、法人内の研修で、異動した職員が人間関係の課題についての確かな意見を出してくれた場面です。その人は以前私のもとで働いていた方で、「ああ、この人の中にちゃんと残っていたんだな」と感動しました。別の事業所であっても、経験が活かしているのを見る

と、関わってきたことの意味を実感できま

福田…そういう積み重ねが法人の力になりますね。では今後バディ制度を進めていく上で、意識したいことや課題があれば教えてください。

橋本…「信じて待つ」姿勢を大切にしたいです。そして、自分が異動することになったとしても、「橋本さん、次の場所でも頑張ってるね」と言われるような存在になりたいです。異動はさみしい面もありますが、成長のチャンスでもあるので、バディとして関わる人にもその視点を持ってもらえたら嬉しいですね。

久原…バディ制度は一方的な「育成」ではなく、関係性を育てる仕組みです。職員同士が気づき合って、誘い合って、協力し合える職場にしていくことが大切だと思います。

佐藤…新人が「楽しい」と感じられることを継続していくためには、成長とともに増えるプレッシャーを周囲がうまくフォローしていく必要があります。「最近ちょっと元気ないな」と気づけるアンテナを持ち続けたいと思っています。

橋本…私たちも年齢を重ねてきたので(笑)、若い職員が通る道の大変さを理解しているつもりです。だからこそ、寄り添える立場にあるのかなとも思います。

福田…では最後に、これから入職を考えている方々に向けてメッセージをお願いします。

橋本…萌葱の郷は「人間と人間が豊かに過ごせる場所であってほしい」というスローガンのもとに活動しています。合理的配慮を大事にし、人を大切にできる文化がある職場です。自分の子どもにも勧めたいくらい、自信を持っておすすめできます。人が好き、福祉に興味があるという方は、ぜひ飛び込んで来てほしいです。

久原…たとえ自信がなくても、誰にでも得意なことや個性はあると思います。私たちは、それを見つけて伸ばせる環境を提供したい。安心して働ける場所を一緒に作って

いけたらと思っています。

佐藤…私は法人に初めて関わった時、本当に感動しました。この職場の文化に惹かれて入職した一人です。実習や見学に来た方にも「ここで働きたい」と思ってもらえよう、日々の業務に丁寧に向き合ってもらえよう、お互いの得意を認め合い、支え合いながら、一緒に働けることを楽しみにしています。

福田…本日は貴重なお話をありがとうございました。このインタビューが、バディ制度の意義と魅力を伝えるきっかけになればと思います。今後も職場全体で支え合いながら、より良い環境をつくっていきましょう。



インタビュアー
福田 和彦
めぶき園 施設長

佐藤 瑠美
わくわくかん 支援係長

久原 恵子
大分なごみ園 支援係長

橋本 友紀
なごみ園 支援係長



大分県発達障がい者支援専門員の会 15周年記念講演会が開催されました 『ケーキの切れない非行少年たち』から考える 困っている子どもたちへの支援



講師：宮口 幸治

立命館大学 総合心理学部・大学院人間科学研究科 教授 / 児童精神科医

立命館大学総合心理学部・大学院人間科学研究科教授。医学博士、臨床心理士。京都大学工学部を卒業し建設コンサルタント会社に勤務後、神戸大学医学部を卒業。児童精神科医として精神科病院や医療少年院に勤務し、2016年より現職。一般社団法人日本COG-TR学会代表理事。

主な著書に『ケーキの切れない非行少年たち』、『どうしても頑張れない人たち / ケーキの切れない非行少年たち2』（以上新潮社）、「コグトレみる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング」（三輪出版）などがある

令和7年7月19日（土）、音の泉ホールにて「大分県発達障がい者支援専門員の会 15周年記念講演会」が開催されました。講師には、精神科医であり『ケーキの切れない非行少年たち』の著者として広く知られる宮口幸治先生をお招きし、「ケーキの切れない非行少年たちから考える困っている子どもたちへの支援」と題してご講演いただきました。非行や問題行動の背景にある発達特性や認知機能の偏りについて、事例とともにわかりやすく解説されました。また、宮口先生が開発した認知機能強化トレーニング「コグトレ」についても紹介があり、実際の支援現場での活用法や支援者としての姿勢について、多くの示唆が得られる内容となりました。今回の記念講演会には、保育・福祉・教育・医療・労働・行政など、各分野の関係者から多数の参加希望が寄せられ、およそ700名の方々にご参加いただきました。会場の都合により、やむを得ずお申込みをお断りせざるを得なかった方もおられ、本講演会への高い関心と期待の大きさがうかがえました。



大分県発達障がい者支援専門員の会とは？

大分県発達障がい者支援専門員の会は、大分県発障がい者支援センター連絡協議会が実施する「発達障がい者支援専門員養成研修」を修了し、専門員の資格を取得した人たちによって平成21年に設立された任意団体です。現在では約270名の専門員が所属し、各圏域ごとに連絡会を行い、保育・福祉・教育・医療・労働・行政の分野を超えた連携を図りながら活動をしています。

令和6年度 研修委員会 年間活動報告

月 日	開催	研修内容・演題	講師
4月 1日	キャリアパス研修 ①	萌葱の郷の理念・これまでの歩み・展望について	社会福祉法人萌葱の郷 理事長 五十嵐 康郎
1日	キャリアパス研修 ②	萌葱の郷の事業内容について (法人内事業所見学)	各事業所の管理者等
26日	キャリアパス研修 ③	接遇マナー研修	障がい福祉サービス事業所 どんこの里 いぬかい 施設長 近藤 暢秀
5月 11日	キャリアパス研修 ④	関係性の構築に向けた事例検討	大分県発達障がい者支援センターECOAL センター長 五十嵐 猛
11日	キャリアパス研修 ⑥	虐待防止・身体拘束について	障害者支援施設 めぶき園 園長 福田 和彦
6月 14日	キャリアパス研修 ⑧	感染症について	どんこの里 いぬかい 看護係長 首藤 千鶴代 こざいこども園 主任補看護師 田口 妙子 わくわくかん 看護師 平川 ゆき奈 なごみ園 看護師 橋本 叶枝
7月 5日	キャリアパス研修 ⑤	自閉症・発達障がいの基礎知識 (心の理論について)	大分県発達障がい者支援センターECOAL 副センター長 田中 秀征
19日	キャリアパス研修 ⑦	てんかんについて	障害者支援施設 めぶき園 看護師 戸高 あすか
9月 25日	事例検討会	事例検討会 (児童・成人)	【発表者】 大分なごみ園 保育士 荒田 尚子 なごみ園 支援員 牧 征那 【SV】 なごみ園 管理者 秋月 正博 大分なごみ園 管理者 後藤 伸二
28日	事業所内研修	心肺蘇生法とAEDの使い方	いぬかい消防署
11月 2日	事業所内研修	子どもとの豊かなコミュニケーションを築く インリアル・アプローチ	臨床心理士 合田 紀子
13日	キャリアパス研修 ⑨	AED研修	株式会社サニクリーン
15日	全体研修	保護者対応について	いぬかいこども園 園長 佐藤 任孝 ECOAL 副センター長 田中 秀征
12月 6日	事業所内研修	育ちのミカタを用いた事例検討会 (グループワーク)	こざいこども園 園長 五十嵐 猛
7日	事業所内研修	怪我の初期対応/誤嚥・誤嚥	わくわくかん 看護師 平川 ゆき奈
21日	事業所内研修	どんこの里 いぬかいの事業内容について	障がい福祉サービス事業所 どんこの里 いぬかい 施設長 近藤 暢秀
1月 17日	事業所内研修	育ちのミカタを用いた事例検討会 (グループワーク)	こざいこども園 園長 五十嵐 猛
2月 8日	事業所内研修	他事業所見学	医療法人 謙誠会 博愛こども発達支援センター
27日	事業所内研修	新規利用児 (小1) への配慮点について 放デイの取り組みについて	こども発達・子育て支援センター なかよしひろば 支援係長 足立 朋子 こども発達・子育て支援センター なかよしひろば 支援員 園田 菜摘
3月 7日	事業所内研修	教育の制度や教育との連携について	大分市教育センター 板井 光代 (大分県発達障がい者支援専門員)
15日	事業所内研修	能登半島地震 “1.5次避難所” への 介護職員等の派遣に参加して	障がい福祉サービス事業所 どんこの里 いぬかい 支援係長 原田 竜二

協力者御芳名 (順不同) ● 高橋歯科医院 院長 南部貴志様 ● 株式会社 富士設計 様

大分市

法人本部

大分県大分市中戸次 5620-1
TEL 097-574-8688 FAX 097-574-8687
honbu@moeginosato.net

へつぎ保育園

大分県大分市中戸次 5620-2
TEL 097-574-8673 FAX 097-574-8674
hetsugihokuen@moeginosato.net

大分県発達障がい者支援センター ECOAL

大分県大分市中戸次 5628 番地の 1
TEL 097-578-6952 FAX 097-578-6953
ecoal@moeginosato.net

こざいこども園

大分県大分市大字屋山 1658-6
TEL 097-528-9900 FAX 097-528-9911
kozai@moeginosato.net

わくわくかん / 相談支援事業所 プラスα

大分県大分市大字屋山 1658-1
TEL 097-592-8989 FAX 097-592-8990
waku2can@moeginosato.net

こども発達支援センター 大分なごみ園

大分県大分市丹生 210-3
TEL 097-524-3636 FAX 097-524-3637
ootanagomien@moeginosato.net

グループホームかわしま・へつぎ棟

大分県大分市中戸次 4454-1
TEL 097-578-8323 FAX 097-578-8324
hetsuginagomi@moeginosato.net

豊後大野市

障害者支援施設 めぶき園

大分県豊後大野市犬飼町下津尾 4355-10
TEL 097-578-0818 FAX 097-578-0819
mebukien@moeginosato.net

ホームヘルプサービスセンター らすかる (めぶき園内)

大分県豊後大野市犬飼町下津尾 4355-10
TEL 097-578-1888 FAX 097-578-0819
rasukaru@moeginosato.net

障がい福祉サービス事業所 どんこの里 いぬかい

大分県豊後大野市犬飼町久原 1863 番地 8
TEL 097-578-0077 FAX 097-578-1226
donko@moeginosato.net

グループホーム かわしま

大分県豊後大野市犬飼町下津尾 3709-8
TEL 097-578-0885

いぬかいこども園 なかよしホール

大分県豊後大野市犬飼町原 1421-40

ライフサポートセンター なごみ園

大分県豊後大野市犬飼町大寒 2149 番地 1
TEL 097-586-8070 FAX 097-586-8071
nagomi@moeginosato.net

いぬかいこども園

大分県豊後大野市犬飼町原 1419
TEL 097-578-0706 FAX 097-578-0710
inukai-hokuen@moeginosato.net

いぬかい子育て支援センター ゆうゆうキッズ

大分県豊後大野市犬飼町原 1416-1
TEL 097-578-0188 FAX 097-578-0166
yoyoukids@moeginosato.net

こども発達・子育て支援センター なかよしひろば

大分県豊後大野市犬飼町原 1414-1
TEL 097-586-8811 FAX 097-586-8818
nakayoshi@moeginosato.net

編集後記

暦の上では立秋を迎えるとはいえ、日毎に暑さが厳しく感じられますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。クーラーの効いた部屋で過ごすことが多い日々ですが、毎年夏になると海や川に遊びに行きたくなります。暑さの中でも思い切り遊ぶ子どもたちを見ると少し羨ましいと感じます。夏ならではのイベントも多く、なんとなくワクワクした気分で予定を立てています。やりたいことが沢山です。まだまだ暑い日が続きそうですが、体調に気を付けて元気に夏を楽しみたいですね。本年度もよろしくお願いいたします。

発行者：社会福祉法人 萌葱の郷 大分県大分市中戸次 5620 番地 | TEL 097-574-8688